

第4回学校関係者評価委員会 議事録

日時：2019年9月12日（木）16時～17時

場所：厚木看護専門学校 会議室

1 開会（司会）

2 学校長あいさつ

本日は、委員の皆様方、大変お忙しいところ、お集まりいただき、ありがとうございます。日頃いろいろな側面から当校を支援いただき本当に感謝いたします。

より良い学校づくりは、学校として一番に取り組むことです。評価をすることも当たり前になり、当校は2005年から自己点検・自己評価に取り組んでおります。この学校関係者評価委員会は、今年が第4回となり、年1回皆様にごうしてお集まりいただいています。課題に感じていることとしまして、今日も検討していただきますが、2018年度の評価は、昨年度の評価を年度末にまとめました。既に9月になり、半年も経った時期に皆様に評価をいただくのは、少し遅いと感じております。評価結果は既にホームページにも掲載していますので、次年度は時期を早めまして、翌年度に反映できるような形に整えていかなくてはならないと考えています。

昨年度より学生が委員として参加して、今年で2年目となりました。学生が委員として参加することは中々行っていない取り組みなので、私どもも喜ばしく感じていますし、学生も学生の立場から学校を良くしていく一人として参加していますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日は、限られた時間の中ではございますが、忌憚ないご意見をよろしく願いいたします。

3 委員紹介（司会）

4 報告1（担当教員）

（「自己点検・自己評価 2018年度の結果と取り組み」について説明）

<司会>

ただ今の報告とお配りしました資料に関して、ご意見、ご質問をお願いします。

<学識経験者委員>

卒後の就職状況の把握を行うことは素晴らしい取り組みと感じました。卒後何年目の方を調査対象とされたのですか。一旦退職した人が、30・40代になって復職する事例もある。その中にこちらの学校を卒業された人もいるかと思い、看護協会でも注目されているので、教えてください。

<学校長>

こちらについては一部でございますが、卒後1年の方を今回は対象としました。全部の施設ができればいいのですが、まずは主な実習病院、8病院に出向いて看護部に聴き取りをしました。今年も1年が経ち、次の人たちの情報収集を行っています。実際に訪問した委員から補足をお願いします。

<学内 A 委員>

大きく 5 点について尋ねました。まず、就職した学生が継続的にその職場に在籍しているのか？在籍していないのであれば何が原因で退職したのか？を調査しました。2 点目は、学習面や技術面での課題が何かあるのか？3 点目は倫理的なことで何か卒業生が気になるような行動がなかったのか？4 点目がコミュニケーション、人間関係という点でどうだったのか？最後に看護基礎教育に対して望むことは？といった内容で聞かせていただきました。当校は割と態度面では厳しいと言われていたので、礼節等については特に問題無いということで評価をいただいているのですが、学習面では、情報アセスメント、特に情報収集に関して今その場で起きている情報を把握することが困難であると、去年も今年も言われていて、看護展開では、その時々判断力が必要になっているので、授業でどのように学生自らが培っていくのか、実習でどのようにすれば培っていけるのか、を課題として取り組んでいます。あとは個によることも多いですが、相談できない、礼節はできているが、社会人基礎力として、困ったときに相談ができないと退職につながってしまうので、タイムリーにきちんと相談することが必要と感じています。卒後に知識・技術も私たちがやりますので、と言われていています。連携がすごく大切なので、訪問してコミュニケーションも捗るので、そういった繋がりが大切だと感じながら取り組んでいます。簡単ですが、以上です。

<学識経験者委員>

こうした試みが、調査するだけではなくて、病院との連携を作るのに非常に役立っている、と感じました。

<司会>

ありがとうございます。その他に何かございましたら、後程意見交換の時でも構いません。次に「明日の厚木看護専門学校を考える」アンケート結果の説明をお願いします。

5 報告 2 (担当教員)

(「明日の厚木看護専門学校を考える」アンケート結果について説明)

こちらは 2019 年 3 月に取ったものです。今の在校生で 2・3 年生は回答しておりますが、1 年生は回答していません。資料の最初に前年度との比較を取っています。2018 年度の 3 点以下について今回は拾いました。一科、二科ともに①予習をして授業に臨んでいる、③疑問点を明らかにするために質問することができている、④グループワークを有効に学習することができている。学習準備と授業に臨む姿勢が 2017 年度より下がっており、学修生活支援については 2017 年度より上がっています。

<司会>

ただ今の結果も含めて、より良い学校づくりに向けて、皆様からご意見をお願いします。今までの全ての報告に関することでも構いません。アンケートの自由記載につきましては、学生の意見をそのまま掲載していますので、ご了承願います。

<学生 A 委員>

学生間で連絡メール「安心でんしょばと」が話題になっています。先日の台風で、3 年生は自宅待機となりました。まず朝 5 時に連絡が来て、その後休校となりました。今、メールとアプリとの

併用になっています。アプリとメール両方あって意味があるのか？いずれはアプリになるのか？
「安心でんしょぼと」の今後を教えてください。

<司会>

まず「安心でんしょぼと」とは、緊急時に学校から学生さんへの一括連絡配信ツールであることを説明します。先日の台風で安全確保から全学生に配信しました。今の質問はアプリとメール混在して、混乱するとのことですね。今後、アプリに1本化するのか？ということですね。

<学内 B 委員>

もし、アプリ1本とした場合、学生さん、保護者全員がスマートフォンを保有しているわけではないので、一部の方が利用できなくなってしまう可能性があります。したがって、アプリとメール併用としています。メールだけの場合、迷惑メールに届いて、確認ができないという事が起きていました。またアプリの方が学生さんも確認しやすいということもあって、アプリ導入は有効だった、と考えています。

<司会>

補足しますと、学校がフィーチャーフォンを持っている人にスマートフォンに買い替えるようお願いすることは難しいので、世の中がスマートフォンに切り替わるまで併用せざるを得ません。よろしいでしょうか。

<学識経験者委員>

予習をして授業に臨んでいるという項目が毎年同じ傾向で、学生さんもたくさん意見していて、時間が無い、余裕が無いという意見が多く見られます。この辺りは学校として、どのように時間の使い方や予習の方法等指導しているのでしょうか？

<司会>

これに対して、ご意見をお願いします。

<学内 A 委員>

予習については、前回も低く、対応に取り組んでいます。先ずシラバス自体が何を予習したらいいのか、がわからない状況だったので、次に授業で何をやるのか、がわかるように組み直しました。あとは次までに課題に取り組んできて、と伝えています。これは実は予習につながっていますが、これを予習として捉えているのか？疑問です。学習時間も調査しています。1週間単位にすると1時間とかそれ位でした。「時間が無い」という理由については、それでどうして時間が無いのか？が理解できないところですので、教えてください。あとは、課題が重ならないように夏休み等教員間で調整しています。

<学内 C 委員>

1単位45時間でやるところを30時間で、15時間を自ら補うという意味での課題学習なのか？次の授業に臨むにあたって、教科書を読む、レポートをまとめる等予め準備をしておく、教員はガイダンスをしているとは思いますが、実際には課題と予習が混ざっていて、予習をしても授業で使わないことが多いため、次までに「ここをやっておきましょう」と教員が言ったのにも係らず、次の授業で反映されない。「予習してきたのに」ということがあるので、教員として説明責任に努めるよう、周知を諮っているところではあります。声として、去年よりむしろ増えている印象があります。

<学校長>

去年、話題になっているので、ご承知の方も居るかと思いますが、去年よりも取り組んできたつもりなので、この結果に残念という感じもしております。課題を出すときに「予習」と言っていない、ということもあるのかも知れません。また、学生側の受け取り方ということもあるのかも知れませんので、学生さんの意見も聞いてみたいです。

<司会>

学生さんからいかがですか。

<学生 B 委員>

まず、予習課題として出されたものについては、予め本を読んできたというものについて、予習として捉えていないと思います。あくまで課題は課題であり、予習は予習で自分から取り組むものとしてアンケートの回答だと思えます。実際、課題と予習がイコールとして捉えられていない、という理由でポイントが下がったものと考えます。先ほど「授業で使わないから」というのは、おそらくパワーポイントをメインで進める先生の授業に対して、「教科書読んで」と言われても「教科書を使わない」ので「予習をしても意味が無い」という言い方になります。また、「この範囲をやるよ」と言われても、教科書を使わなかった。予習にはなっているはずですが、そうだと受け取らないで、使わないならやらないという回答になったのかな、と推察をします。

また、時間が無いというのは、おそらく二科の方は仕事をやりながら、ということもありますので、中々課題をこなした後に自分の勉強の時間というのは難しいと思います。また社会人の方は自分の子どもの世話の後ということだと、テストに向けた勉強等が優先になり、翌日の授業まで手が回らない、という話をよく聞きます。現役生の方については、1日のうち8時間程度勉強をして、帰宅してからは、余暇を自分のために使いたいということがあると思います。特に若い世代は、興味があることに取り組みたいということもあります。勉強は学生の仕事であるという例え話もありますが、もし勉強が仕事だとすれば、持ち帰り仕事をするのか、ということもあるものと考えます。

<学生 C 委員>

授業の中で課題が出たりします。その課題をやっているだけというように感じてしまい、やってきた人のものをただ「写させて」という声も聞こえてきたりしますので、それがイコール予習だと受け取っていないと感じています。予習をしても授業で使われないということに関しては、予習をしてきても、予習をしてきたところを授業で触れないということは、時々私も感じていて、予習が課題として出されましたが、予習としてやってきて、授業でそれを発表しなかった、課題に取り組んでいない人がいるにもかかわらず、その課題が無かったかのように授業を勧めてしまうという事が、入学してから幾つか体験したので、そこは私も意見の1つと感じています。

<司会>

講師としていかがでしょうか。

<講師委員>

学生さんの気持ちも「よくわかるな」ということでもあります。ここまで「時間が無い」ということがアンケート結果で出てしまっているということは、どうやって時間を作るのか、という工夫を提案、何かこういった形で工夫してみたら、と教員側いわゆる大人として、何か言える部分もあるかと、思います。例えば自己研鑽、そういった時間で次の自習であれば、こんなことをするのだ

よ、といった動画を作れるのであれば、少しは授業の足しにもなるのか、と考えたりもします。いずれにしても時間が無さすぎるのか？去年も言った気がします。

<司会>

先ほど1週間の学習時間が1時間、学生達への調査結果が出ていて、1週間のうち1時間は学習しているけれども、他はしてなくて、時間が無いというのは、例えば家事とかを家でやらなければいけない境遇にあるのか？当校はアルバイトを禁止ですので、アルバイトを絶対していないという前提に立った時に1週間で1時間しか学習をできない位に忙しい環境が教員の中では想像がつかないということがあり、この結果は一体何なのだろうか？とそこはどうですか？

<学内 A 委員>

訂正します。1日に1時間です。1週あたり8時間です。

<司会>

それが課題に費やされて、予習までにつながっていかない、かも知れないということですね。

<講師委員>

時間の使い方という話に触れましたが、言った理由は、学生さんが就職する医療現場において、何かあった時にパツパツの状態で何ができるのか？ということがあるかと思います。自分がやらなくてはいけないことがここにあります。これは今やる、これは後でもできる、といった振り分けをして、ちょっとでも余裕を持てる状況でないと、仕事に就いてからも大変になってしまうのではないかと、ですので時間の使い方をうまい具合に学校側から提案ができれば、いいのではないかと思います。

<学識経験者委員>

昨年の話からもいろいろと考えることがありますが、最終的に仕事に就くときに予習型でないと備えていけないということがあると思います。終わった後に復習をするのは、当然のこと。自分が明日受け持つ、あるいは1ヶ月、2ヶ月先のある状況を想定して、予習の習慣が身に付いていないと、対応ができないということになるので、予習が何故必要なのか？学生さんの方も先生達がこれだけ言うのは何故だろう？ということでも話し合ってみるのもいいのでは？と思ったりもします。予習の仕方がわからない。何を予習したらいいのか？がわからない、という人たちにどう対応するのか？私も大学に所属していますので、課題が無いと何も予習をしてこない、科目が終わった時に予習をしていません、という項目に○が付いてきますので、予習を課題として出されたところをやっているだけです。ということは高校までの学習の中で、予習が身に付いてなくて、課題をこなすだけで、教員側も次の授業に向けては何が 필요한のか？を意識して課題を出す、予習を意識した課題を心がける、自分にも言い聞かせたといったところです。

<学校長>

仕事に入ると、今先生がおっしゃったとおりに予習型でないと現場での対応ができない、と感じます。そうしたこともわかっているので、私たちも学生達に伝えてはいますが、学生達にその意図を十分に伝えられているか、は課題であると聞いていて思いました。臨床の現場ではいかがでしょうか。受ける立場として、また新人の状況や予習型であるのか等を教えて下さい。

<関連業者等関係者 A 委員>

今先生がおっしゃったように、現場に出ると特に新採期でありますと、次の日にどんな患者さん

を受け持つのか、どんな検査があるのだろうか等予習して臨んでもらいたいという気持ちは有ります。それには、予習する習慣が身に付いているといいのですが、現場に出ると疲れてしまってできない等の声もありますし、時間の使い方については永遠の課題であると思っています。予習をしてもらうとより患者さんにスムーズに入りやすい、と思います。

<関連業者等関係者 B 委員>

当院でも集合研修を少しずつ減らしてなるべく患者ケアに行けるように、集合での研修でなく、現場で教えるよう切り替えています。そうしますと、次にこの患者さんを受け持ったときにどんな検査が必要なのか等予習を自分達でする習慣を身に付けていく必要があります。数年前、当院で取ったアンケートの中でも集合研修の中で全てを教えてもらえるという回答がありました。こちらの提供の仕方も問題なのかな、と感じました。授業を担当している中で、学生の間は「勉強してきてね」「ここを読んできてね」で済みます。予習の仕方や学び方が少しでも身に付いてきますと臨床に出たとき、新人さんも勤務に慣れるまで余裕が無い状況であることはわかりますが、何のために、患者さんのケアのために予習が必要ということわかるよう育ってくれると良いと思っています。私自身、授業では「教科書のここを勉強するので読んできてね」位しか今年度も言わなかったけれども、予め読んできた学生は授業の内容も理解が深まっている印象がありましたので、学校の方とも相談しまして、学習のさせ方や課題の提示の仕方を考えていきたいと思っています。

<司会>

ありがとうございます。卒業生としてご意見をお願いします。

<卒業生委員>

今、話を聞いていて、学生さんは現場での忙しさを実感として持てないのかな、と感じました。現場では、日々キツキツでやっている状況を実習のときに見えているかと言えば、決してそうではないだろうし、新人で入職した時に、もっと時間が無くなってしまうということを学生さんに理解してもらえるといいのかな、と皆さんの話を聞いていて思いました。言葉で言われて「ハイわかりました」と言っても、実感として無いと思うので、実感をどのように掴んでもらえばいいのかな？と思いながら話を聞いていました。いろんな意味で体験が少ないので、親の仕事ぶりを見ている等も無いだろうし、うまく伝わらずに実感を持てないのかな、と思いました。例えば、実習を通じて、1年生の早い段階で看護師さんがどれだけ忙しいのか見てもらってもいいのかな、と思いました。

<司会>

ありがとうございました。保護者委員からもうかがえますか。

<保護者 A 委員>

アンケート結果を見ると、いろいろとひどいことも書かれているな、と思いました。ここまで書いてしまうって、正直なのでしょうね。私は看護でなく、現場は保育ですが、研修もあって、この歳になっても日々勉強です。看護の世界は、人の命を預かり、死とも隣り合わせになるような大事な仕事だと感じているので、先生達はもっと厳しく伝えていい、と思います。自分で将来、看護の仕事をやりたいと思って入学したので、自分で決めたのだから責任もってやりなさい、と私は伝えていきます。先生達はもっと厳しく伝えて下さい。どこの現場に行っても勉強はとても大事なことです、今のうちに厳しくお願いします。

<保護者 B 委員>

私は医療系には全く携わっていませんので、子どもの話を学校への不満として聞いているだけです。その部分でしかわかりませんが、先生の意見がまちまちで統一されていないため「ここからテストで出すよ」と言われて勉強したところから、全然違うところからテストで出題されている、ロッカーの使い方も常に不満が出ている、勉強も見えていないところでは、そこそこはやっているようですが、さらに塾に通うように言われた等、子どもも勉強のことで不満があるのかな、といったところですよ。

<保護者 A 委員>

3年生に上がって早いうちに塾に行かせていただきました。もっと早いうちに1年生、2年生のうちから通えば良かった、楽しく勉強できて、さらに知識を深める機会となり、早めの時期に通えば良かった、と言っていました。

<司会>

地域のお立場からいかがでしょうか。

<地域関係委員>

ご自分の意志でこの看護学校へ通うことを早くから決めて、志がしっかりとしていて、勉学にも熱心に取り組まれるのかな、と思っていましたが、ほぼ普通の学校とアンケートの回答は変わりません。ある意味では、お母様がおっしゃったとおり、人命を預かる道へ進む心構えをかなり早い時期にしっかりと植え付けていく時間を持つ方がいいのかな、と思います。私は一般企業の出身ですが、直接学生には関係ないかもしれませんが、何かを責任もってやろうとすれば、段取り、即ちどう上手く進めたらいいのか、を考えます。例えば、昇進試験ですと朝の4時、5時に起きて、食堂へ行き1人で勉強をするような、姿勢が出てきますので、そういった負荷というか、課題を上手く絡めて、このまま上手く取り組んでいただければ、できるような気がします。

<司会>

ありがとうございます。ほかにご意見をお願いします。

<関連業者等関係者 C 委員>

全体的なお話をさせて下さい。資料1で自己点検・自己評価を出されていて、点検の結果を学校の方で評価・分析をされていて、2019年度の重点事項、取り組み課題として取り組まれています。今回配付されました資料3ですが、こちらにつきましては、アンケート結果のみです。当然、学校では、評価・分析、この中から取り組む課題等に取り組んでいると思いますので、そういったところも示していただけると、よりわかりやすくなると思います。細かくなりますが、資料3第一学科の項目で9番、10番、11番、こちらの項目につきましては、資料1の方の自己点検・自己評価報告書の方の4ページの下の方の「学生支援」のところと同じ項目が当たってきて、例えば、資料3の9番の「健康管理について」というところの学生の方は3.49なのですが、資料1の方では3.7、同じく10番、11番でも学生と教職員とで点数の乖離が見られます。こういったところも比較していただき、今後の課題等抽出すると良いかと思いました。

<司会>

ありがとうございました。

<学校長>

今回この自由記載には私たちにとってショックな内容もありますが、正直に書かれています。結

構誤解や勘違いもしており、私たちも十分に伝え切れていないところで、こんな風を感じているのか、という項目もありました。自由記載で記入した学生を特定できませんが、そういったところを修正していく必要もあると感じています。

<学識経験者委員>

今回は評価委員会ということで学生さんが参加しましたが、こうした形ではなくて、年に2回程度評価委員会の方とクラス委員とで少し交流をされては。お互いに伝えたいという思いが非常にあると思います。やはり年2回位集まりをやっていた所では、学校の立場として叶えることができないような意見も沢山上がります。例えばエレベーターの台数を増やしてほしい等。でも中には、教員から web に自分の資料をアップするので印刷するよう要請がありました。これに対して授業料を支払っているのだから印刷してほしい、と意見がありました。こうした事例は、話し合いの機会を持つことで改善していくことができますので、前向きな取り組みにつながります。また設備は容易には変更できないということを学校側から伝える等機会にもなります。

<司会>

そういった案はあります。学生達と向き合っている教員達と学生が希望を語り、話し合う機会を持った方が良いと思います。近い将来、そういうことが形になると思います。私の個人的な意見ですが、これは、学生さんの意見ですのでこのまま受け止めようと考えています。こうした意見を目の前の教員に対してもアサーティブに言える力を付けたいと思います。言うてはいけないこと、基本的には人権を傷つけること以外は、言っても良いと思っています。それが不満であり、陰で言う事で終わるのではなくて、やはり学生の主体性の中で、一緒に学校を変えていく、という気持ちが学生の中でも育ち、種を撒ける教員にもなってほしいと思います。今、先生にご意見をいただいて、なるべく早い時期に達成できましたら良いです。きっと学生も言いたいことが沢山あり、教員も言いたいことが沢山あります。お互いさまで、これはきっと学校に関する関心が高いということであり、良い意見も悪い意見も無いより良いことだと思います。

お時間も差し迫ってきましたが、さらにご意見を伺いたいと思います。予習の件以外でも構いません。

<学生 B 委員>

質問できているか？グループワークを活用しているか？という問いもありましたが、自分が40歳代で二十歳の学生に交じっていますと、主体的ではないと強く感じる場合があります。当事者意識を持っていないというか、自分が今ここで授業を受けて勉強をしている、ということを理解していないのではないのかな？という子が多い。そうした子たちがグループワークで集まると、参加している子、していない子、が居てその場にいることが嫌だという空気となることがあります。当事者意識を持っていない子に対して、どうアプローチしていくのか？ということができると、学校として良くなっていくのでは、という感想です。

<学生 A 委員>

私は3年生ですが、卒業生委員が先ほどおっしゃったように1年生の段階から、時間の使い方とかを学校サイドから指導をしていくことが良いと思います。実際、実習に行っていますが、時間の使い方をグループメンバーで相当調整します。指導者さんと行動を調整する、調整結果が頭に入りきらない位の行動調整になります。時間が無いといっぱい記載してありますが、時間を上手に使い

こなしていくことが重要であるということを早い段階から身に付けていかないと、仕事をしてからも頭の中で時間を組み立てていかないと、仕事が時間内に終わらないので、そうした取り組みは必要だと思います。

<司会>

グループワークにおける当事者意識に関しては、教員達も授業をしながら模索している部分だと思います。学生委員からの意見でも、年齢を伴うと今この瞬間の学習がどんなに大切であるのか、本当に身に染みてわかっていて、私達もそうですが、若い人たちの中でも学習の取り組み姿勢が重要だと理解できるのは、学習を繰り返しながら、もう少し経ってから、働いてからわかるようになるという事実を、実は許容している部分もあります。それが重要だとわかって、もう手遅れとなり、臨床に馴染めず、業務が終わらなくて、突き詰められて、辞めていくというパターンは避けたいと思っています。そこの指導の厳しさとのバランスが難しいです。学生さんが学ぶということを学ぶ時期、つまり学ぶとは一体どういうことか？をそのまま学んでいる時期でもあり、最初から学習者としてしっかり入ってくるのは難しいところでもあります。そうした中に社会人という学習の大切さを理解しているクラスメイトも交えて学習することを学ぶということを伝搬していただくということも正直に期待をしている部分でもあります。社会人の方にとってそれは重荷で大変だと感じることもあります。興味があることは一生懸命取り組む、若さのエネルギーである、相互に学び合うということを頑張ってもらい、教員もどうやって支援するのか、というところも課題として学生を育てていきたいと思っています。学生とこうした意見交換もできたらと考えております。

他に厚木看護専門学校を良くする、育てるということで何かご意見ございますか。特に無ければ、閉会とさせていただきます。本日は、ご出席いただきありがとうございました。

(以上)